

令和6年度第1回 三鷹市環境保全審議会議事録（要旨）

開催日時：令和6年8月9日（金） 午後4時から6時30分
三鷹市公会堂さんさん館3階 第1会議室

<出席委員>

谷口委員、志賀委員、荻野委員、是井委員、荒井委員、有馬委員、角田委員、藤沼委員、利谷委員、山口委員、佐藤委員、成田委員、山田委員、石井委員、平井委員、槇委員、千葉委員

<傍聴人>

2人

<次第>

- 1 委員委嘱
- 2 委員自己紹介
- 3 会長あいさつ
- 4 市長あいさつ
- 5 事務局より事務連絡
- 6 議事
 - (1) 三鷹市環境基本計画2022（第2次改定）の進捗状況について
 - (2) 三鷹市環境基本計画2027（仮称）策定の基本的な考え方について
 - (3) 三鷹市緑と水の基本計画2027（仮称）策定の基本的な考え方について
 - (4) その他

<配付資料>

- 資料1 三鷹市環境基本計画2022（第2次改定）の進捗状況
資料2 三鷹市環境基本計画2027（仮称）策定の基本的な考え方
資料3 三鷹市緑と水の基本計画2027（仮称）策定の基本的な考え方

<議事内容（要旨）>

- 1 三鷹市環境基本計画2022（第2次改定）の進捗状況について
 - ◇環境政策課長：資料1により、三鷹市環境基本計画2022（第2次改定）の進捗状況について説明。
 - ◆委員1：光化学オキシダントの未達の理由と対策をどう考えているか。公園緑地等の割合は、どう改善するのか、見込みがあるのか。温室効果ガス削減の目標が達成できなかった点について、排出量を計算する際、再エネの比率について正しく計算されているのか。現在、すぐにでも再エネへ契約変更できるため、公共施設については、予算さえあれば、目標達成できる。
 - ◇環境政策課長：光化学オキシダントについては、工場や車から出てくる排気ガスが原因だと考えられる。三鷹だけで解決できるわけではないが、電気自動車に変えるなど、総合的に効

果的な手段を進めていく。温室効果ガス排出量については、再エネを加味した排出係数により計算をしている。再エネの契約については、費用対効果を考慮しながら検討していく。

◇緑と公園課長：公園緑地割合は、計画策定時は 4.6%だったが、その後、三鷹中央防災公園や他の公園整備が行われている。公園整備は簡単には進まないが、大規模開発事業を行う際は、公園提供などを求める仕組みはある。今後も目標達成に向けて、推進していく。

◆委員 2：進捗状況について、目標達成までもう少しだったのと目標を達成できなかったとの違いは何か。

◇環境政策課長：光化学オキシダントは基準値があるため、それと比較している。公園緑地等の割合の場合は、増えているが目標に至っていない、屋上緑化の場合は、箇所数では超えているが、面積的には足りていない、などの結果から、目標達成まであと少しとした。温室効果ガスは、以前は目標に達していたが、コロナを経て未達となった。実行計画で目標が立てられているため、ここは達成できなかったとした。

◆委員 2：明確な基準はないということか。

◇環境政策課長：明確な基準がないものもあるが、分かりやすくできるよう検討する。

◆委員 3：そらまめくん（環境省大気汚染物質広域監視システム）では、今朝の武蔵野市では測定値なしだった。その後に見たら、青色（基準達成）だった。三鷹市と環境省のデータ連携はしているか。また、光化学オキシダントという言葉は難しい。光化学スモッグという言い方にできないか。

◇環境政策課長：そらまめくんと三鷹市の測定データはリンクしていない。光化学オキシダントは光化学スモッグの原因の一つ。光化学オキシダントという環境基準値があるため、指標としている。

◆委員 3：やっぱり用語が難しい。市民に危機感や安心感を伝えたりするために、分かりやすくしてほしい。

◇会 長：現象はスモッグ、原因がオキシダントであり、最近の学校教育では両方使っている。若い世代はオキシダントにも馴染みがあり、年齢の高い世代にはスモッグの方に馴染みがある。

◇生活環境部長：難しい言葉には説明を加えるなど、分かりやすく伝える工夫を検討していく。

◆委員 4：保存樹林・樹木が減ってしまっている原因と具体的な場所が知りたい。増やす意思はあるのか。

◇緑と公園課長：新川、上連雀などで相続対策や土地利用により減っている。緑はもちろん増やしたいので、増やせるように努める。

◇会 長：クヌギとコナラはナラ枯れが原因で、保存樹木のような大きな木は切っているのが現状。

◆委員 4：温暖化に合わせた樹種を選定することも一つの方法と考える。世界では樹冠被覆率という考えで、枝葉により路面のアスファルト温度を下げようと取り組んでいる。三鷹はどうか。人工芝はコンクリートの上に人工芝を敷いているが、温暖化対策とは逆行しているのではないか。浸透ますは各家庭で行うのは大変なので、アスファルトではない浸透できるような場所を増やす取り組みをできないか。落葉樹は浸透しやすい。樹木のことを考える職員を増やせないか。

- ◇都市整備部調整担当部長：大きな公園や幅の広い道路なども限られる中で、三鷹における樹冠被覆率については検討課題と考える。公園は人工芝を敷いていないが、グラウンドは人工芝を敷いている箇所もある。環境への影響を考えながら検討していきたい。雨水浸透ますは、開発事業では設置を指導している。アスファルトを無くすのはなかなか難しいが、透水性のアスファルトや落葉樹も含めて総合的に検討していく。体制の在り方については、職員だけでなく、NPO 法人など外部機関とも協力しながら進めていく。
- ◇会 長：人工芝でも、透水性のものがある。また、人工芝はケガが化膿しないので、グラウンドには適している面がある。マイクロプラスチックはフィルターで回収できる。
- ◇都市整備部長：必ずしもアスファルトの上に人工芝を敷くようなことにはなっていない。
- ◆委員 3：韓国や中国では路面が冷やされると市民が喜ぶ。検討いただきたい。
- ◆委員 4：樹木は背を高くして、枝を道路側に伸ばすような、路面を冷やす樹形を考えてほしい。
- ◇都市整備部長：緑の質を上げていくことが大事だと考えている。それぞれの場所や生え方など環境が違う中で、一律の考え方で良いとは思わない。それぞれの状況に合った、緑の質を向上させる管理を目指していく。
- ◆委員 5：みたか幼稚園の今後の活用はどうなっているのか。
- ◇都市整備部長：三鷹駅前で緑が多い貴重な場所であるため、相手方と話をしているところである。

2 三鷹市環境基本計画 2027（仮称）策定の基本的な考え方について

- ◇環境政策課長：資料 2 により、三鷹市環境基本計画 2027（仮称）策定の基本的な考え方について説明。
- ◆委員 6：新エネ・省エネ助成金の予算が増額されたが、市民が安心して設備設置を考えられる周知や制度の在り方はどうなのか。
- ◇環境政策課長：窓の断熱改修だけでなく太陽光パネルの申請も増えたため、予算を増額した。今年度はさらに申請ペースが速く、すでに補正予算で増額している状況であるため、これまでより多くの申請がある。できるだけ切れ目のない制度を考えて、市民を後押しできるよう進めていきたい。
- ◆委員 7：事業者の立場としては、顕彰だけでは取り組みの継続が難しいと感じる。例えば、入札時の加点など、前向きに取り組めるような制度とならないか。また、「第 5 章 計画の推進に向けて」について、事業者が具体的にどのように関わるかというのがイメージしにくい。協働をしていきたいと思っているため、どのような連携を事業者に期待しているのか。協働しやすい環境づくりが大事である。
- ◇環境政策課長：自発的に取り組めることは大事なので、ご意見として受け止める。事業者の関りとして、例えば、ゼロエネタウン奨励事業は、事業者とともに進めているものである。また、講座の講師を務めてもらうなどのやり方もあり、連携を図っていきたい。
- ◆委員 1：SDGs2030 年までのロードマップを意識して、危機感を持って取り組むべき。2030 年のカーボンハーフを実現するため、積極的に取り組んでほしい。RE100 の明記を検討すべき。住宅で再エネを設置する際には、キャッシュフローがバリアとなっており、そこを取り除く施策を考えるべき。また、建物の断熱は効果が高いので、マンションでの改修を含めたサポートができると良い。市の単位でできることは限られるので難しいとは思いますが、

サーキュラーエコノミーやマイクロプラスチックも課題である。光化学オキシダント対策としての脱自動車について、自転車利用の推進や自動車を抑制する道路整備などを検討してほしい。

◇環境政策課長：カーボンハーフは、1年でも早く達成するのが重要だという認識はある。2050年カーボンニュートラルに向けて、もっと早いところで行き方を決めていくよう、計画に反映していく。また、市の助成制度において、窓断熱を実施した方に話を聞くと好評で、快適性や健康などにも良い影響があるため、そのあたりと絡めながらPRしていく。オキシダント対策については、ゼロカーボンシティの実現とも絡めながら進めていく。

◆委員1：特に窓断熱は大事で、例えばマンションの大規模改修などのタイミングで市の職員が理事会に参加して説明するだけで、効果がある。

◆会 長：マンションだけでなく、学校でも全部二重窓にすべき。

◆委員2：環境問題は、市だけでは解決できない。周りとの調和・連携を図ることが大事である。また、4年の計画は極めて短期。長期計画も重要である。

◇環境政策課長：4年は確かに短く、この中で成果を出すのは難しいが、市民・事業者などと連携をしながら進めていく。

◆委員3：世界が日本に何を求めているのか。ゼロカーボン世界市民として、大きな効果をもたらす。みんなが笑顔になるためにやっているのだから、重く考えすぎずにやってほしい。

◆委員4：樹冠被覆率の考え方を入れられるか。中低木と高木の考え方はどうなっているのか。なるべく高木を取り入れるべき。

◇都市整備部長：指標に取り入れるかは別としても、熱中症対策やヒートアイランド対策を含めた樹木の役割は、重要であると考えている。中低木と高木については、樹木が持つ様々な効果を考慮し、癒しや景観など全体のバランスの中で考えていく。

◆委員4：段ボールコンポストを推進するための支援や土の回収の計画はあるか。

◇環境政策課長：具体的な計画は決まっていない。市民の取り組みを後押しするような講座や啓発などは行っていく。

3 三鷹市緑と水の基本計画 2027（仮称）策定の基本的な考え方

◇緑と公園課長：資料3により、三鷹市緑と水の基本計画 2027（仮称）策定の基本的な考え方について説明。

◆委員1：公園緑地の達成値が足りなかった。厳しいのは分かっているが、2ha足りないのはかなり足りていない感覚。緑の公共事業は重要であるため、ぜひやっていただきたい。保存樹林・樹木について、樹木は目標達成しているが、樹林は達成していない認識。樹林の保全は、資産税の補助を行っているが、うまくいっていない。個別の所有者の問題があるため、難しいのは承知しているが、例えば資産税の150%相当額に引き上げるとか、これまでとは違うやり方に改善すべきである。屋上緑化と太陽光パネルはバッティングする部分があるが、それぞれのバランスをとり、整理ができるとよりよい計画になるのではないか。

◇都市整備部調整担当部長：公園緑地の在り方は、駅前再開発や東八道路沿道の緑地計画などもある

が、市内全域の緑化を図っていく。開発事業での提供公園の仕組みも使う。急には増やせないが、目標値を考えながら計画を進めていく。保存樹林は個人が所有しているため、個人の事情がある中での対応となる。ただし、これまでと同じやり方には課題があるため、検討していく。屋上緑化はパネルとのバランスも取って進めていく。

◆委員 3：アメリカのワシントン大学にソメイヨシノが 30 本植えられているが、すでに 90 年を超えている。長期計画も重要である

◇都市整備部長：長期的な視点も持ちながら進めていきたい。

◆委員 4：市民からの LINE を活用するとは、どういう内容か。夏場の公園遊具は熱いので、日陰を作るなど遊べる工夫がほしい。

◇緑と公園課長：市民からの LINE 活用とは、例えば遊具の不具合などを市民が通報するような仕組みを考えている。三鷹中央防災公園にミスト装置を設置した。未就学児の水遊びなどについても検討していく。

◆委員 4：三鷹中央防災公園や市役所の中庭は日陰が少なく暑い。

◇緑と公園課長：構造的に大きな木が植えられない場所である。

◆委員 2：補助金ではなく、モチベーションを高める工夫して、市民の協力を得るべき。

◇緑と公園課長：市民の協力は大事。現在でも、ボランティア団体などが活動しているが、モチベーションを高める工夫を検討していく。

◆委員 4：緑のボランティアが増える仕組みが必要。樹木のプレートを設置するなど、樹木への興味・知識を持ってもらう仕組みづくりが必要である。

◇都市整備部長：緑に興味を持ってくれる方を増やしていくことが重要である。花と緑の創造協会でのイベントなど取り組みを通じて、興味を持つ方を増やし、連携・支援しながら緑を支える人たちを増やしていきたい。